

# いちきくしきのっ子

いちき串木野市教育委員会 社会教育課

〒899-2192

いちき串木野市湊町1丁目1番地 電話(0996)21-5128



## 「青松塾19人が入塾」

「青松塾」の入塾式が5月28日に中央公民館で行われました。

小学生17人、中学生2人の参加児童・生徒は緊張した面持ちで、講師を務める鹿児島大学の学生と対面しました。年間22回計画している青松塾は、自学学習を中心に、体験活動・郷土料理・英会話など塾生の「生きる力」にも沿った内容になっています。

この一年間で、塾生が多くのことを吸収して成長していくことを期待します。

## キャラバン隊が巡回

「青少年育成の日」活動推進キャラバン隊が、各地区の合同子ども会を訪問しています。6月5日(日)に先陣をきって冠岳地区は「さつま芋の苗植え」をしました。各地区の計画は下記のとおりです。

開催日	開催地区
6月18日(土)	本浦地区・照島地区・旭地区・羽島地区・川北地区・湊町地区・川上地区
6月19日(日)	上名地区・大原地区・野平地区・湊地区
7月10日(日)	中央地区
9月18日(日)	生福地区

※ 荒川地区は未定ですが、実施を予定しています。

## イン・リーダー宿泊研修



6月4日～5日に1泊2日で南薩少年自然の家に行ってきました。参加者は小学生21人、中学生5人、高校生4人でした。



- 
- 
- 
- 
- 
- 

クイズです。

9つの点があります。この点を直線の一筆書きで全て通るにはどうすれば良いでしょうか？ただし途中で3回しか曲がってはいけません。どうですか、解けますか。解けない場合、お子さんと相談しながら解いてみてください。

こうした様々なパズルを解いてみる時に二人で考える方が時間も苦労も半分で済む、という訳でもないそうです。パズルの性格によって良い場合と、そうでない場合とがあります。では、どんなパズルだと二人で考えると効果がいいかということ、相手が解いている最中に、何をやっているのかが見えやすい方が良いでしょう。上のパズルはまさにそのタイプのパズルですので、誰かと一緒に相談してやると「あっ、そうか！」と解ってしまいます。この場合、相手が何か線を引いている時に、それがいい方法なのかどうか解らないので、ある程度は他人に任せるしかありません。その間に自分は知らず知らずに「いろんな考え方（別の考え方）」をしなくなって、それが共同作業「多様な見方」を取り込んでくることになります。相手のことに批判的になり過ぎず、でも距離を置いて相手のやっていることを見直して、それぞれの相手のやっていることに刺激されて少し違うアイデアが湧くという関係性が、二人でやる事のメリットだそうです。

この研究は大学発教育支援コンソーシアム推進機構という人たちが取り組んでいる「学習を科学する」という取り組みです。認知科学を背景に、人が賢くなる仕組みをみつけ、その仕組みを使ってどう賢くなるかを確かめながら、学習を実践するという新しい取り組みなのです。

二人で（もしくはそれ以上で）問題を解いていく作業は（協調作業あるいは協調過程と言います）人にとって一般的にはすごく苦手で、かつ下手くそだそうです。しかし見てきたように、二人で解く方が答えを導きやすいことが多いそうです。では、苦手の協調作業を敢えてやるメリットはどこにあるのでしょうか？人は思い込みにはまったり、自分が知っていることは他人も知っていると思いがちです。個人で考えると、こうした癖をもったまま作業します。しかし協調作業では、これらの癖から逃れることができるというメリットがあると考えます。つまり人が考えるという作業をする際に、個人の癖を軌道修正できるのです。

今の時代は、二人の協調どころか多文化間での問題解決や、専門家同士の協調によるブレイクスルー（進歩・前進）を必要としています。つまり正解（問題解決の方法）が一つではなくなったということです。そんな時代に必要な能力とは、正解を探す（知っている）ことではなく、正解を導き出すことができる能力だといくことです。

クイズの答えは次号で。

